

平成26年度 学校経営計画に対する中間報告書

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の取り組み(改善策等)
1 生徒に学力を身につけさせるため、教員間の学び合いを通して授業内容の充実を努めるとともに、家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質向上に努める。	① ICT機器の活用を通して、工夫された授業を展開し、学習効果の向上をめざす。	授業にICT機器を活用している教員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 65%以上 D 65%未満	前期学校評価(教職員) ◎教科での研修を活発に行い、授業にICT機器を活用している。 ① よくあてはまる 25.0% ② ややあてはまる 28.8% ③ あまりあてはまらない 36.5% ④ まったくあてはまらない 5.8% ①+② 53.8% D評価 ※後期学校評価にて最終評価をする。	今年度新たに加えた評価項目である。本校では全教員による研究授業の実施など、授業改善に継続的に取り組んでいるが、さらに効果的な授業展開を目標として、積極的にICT機器の活用を目指したい。後期も授業改善を引き続き取り組み、興味関心を高める授業を工夫して行い、生徒が意欲的に授業に取り組む姿勢も向上させたい。
		ICT機器の活用により主体的に取り組み、学習効果が高まると感じている生徒が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	前期学校評価(生徒) ◎ICT機器を活用した授業により、学習効果が高まった。 ① よくあてはまる 20.0% ② ややあてはまる 46.5% ③ あまりあてはまらない 23.0% ④ まったくあてはまらない 8.5% ①+② 66.5% D評価 ※後期学校評価にて最終評価をする。	この項目も、今年度新たに加えたものである。生徒にも前評価と関連する同様の評価を行った。①+②の学年別の値は1年生は74.1%、2年生は78.0%、3年生は46.9%である。3年生の値が低いのは、教室に備え付けのプロジェクターが無く、ICT機器を使用した授業の頻度が低いためだと考えられる。秋には3年生の教室にも備え付けのプロジェクターが設置されるので有効に活用していきたい。
	② 家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質向上をめざす。	1,2年生で平日の平均家庭学習時間が120分以上である生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	学習時間調査 CまたはDの場合は、改善策を検討 今年度 1年 43.9% D評価 2年 83.3% A評価 ※後期学校評価にて最終評価をする。 ※昨年度 7月 1年 58.0% D評価 2年 68.0% C評価 ※昨年度 12月 1年 57.8% D評価 2年 68.1% C評価	平日の平均家庭学習時間120分以上の生徒が2年生は83.6%とA評価の成果があったが、1年生は43.8%と低調な結果となった。これは課題への取組が単なる作業にならないよう指導を徹底し、課題内容も精選したため、このような結果になったと考えられる。今後、学習内容の定着を図るためにも予習、復習の習慣化とともに課題の質・量の充実を図る必要がある。
		1,2年生の英数国の学力試験全国偏差値54以上の生徒が A 55人以上 B 45人以上 C 35人以上 D 35人未満	7月進研記述模試 偏差値54以上の生徒は、 1年 39名 C評価 2年 42名 C評価 ※1月進研記述模試にて最終評価をする。 ※昨年度 7月進研 1年 25名 D評価 2年 17名 D評価 ※昨年度 1月進研 1年 27名 D評価 2年 24名 D評価	1,2年生とも偏差値54以上の生徒数は前年度より大きく増加し、評価を上げた。成績の分布は、1,2年生とも平成22年度入学生とほぼ同じであり、今後は学習指導や進路指導等に教員一丸で取り組み、平成22年度入学生以上の結果を出すよう努めたい。
	③ 朝学習の充実により、学びにむかう主体性を身につけ、学びの質を高める。	朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	前期学校評価(生徒) ◎朝学習に対して積極的に取り組み、学力や教養が身についた。 ① よくあてはまる 18.3% ② ややあてはまる 53.9% ③ あまりあてはまらない 21.3% ④ まったくあてはまらない 6.1% ①+② 72.2% B評価 ※後期学校評価にて最終評価をする。	前年度までの調査内容に「学力や教養が身についた。」という内容を追加したため、前年度との比較は難しいが、①+②の値は、前年度同期(85.7%)、前年度末(90.6%)より大幅に下がった。朝学習を効果的に運用するため、内容の検討・位置づけの見直しなどが必要である。
			論理的な思考力を身につけ、考えたことを主体的に表現し、相手に伝えることができるようにする。	論理的思考力をつけるための指導を授業に取り入れ、考査にも出題している教員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び後期の取り組み(改善策等)
2 個別面談や学習活動を通したきめ細かな指導により生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	① 進路検討会を充実させ、それを基にして生徒面談を行い、1ランク上の志望をもたせることにより学習意欲と学力の向上を図り、進路希望の実現率を高める。	模擬試験の各教科(科目)の結果が A 平均偏差値50以上 B 平均偏差値48以上 C 平均偏差値45以上 D 平均偏差値45未満	7月進研記述模試 各学年の科目毎の平均偏差値は、 1年 国語 50.9 A評価 数学 48.1 B評価 英語 46.4 C評価 2年 国語 49.5 B評価 数学 46.6 C評価 英語 46.7 C評価 ※1月進研記述模試にて最終評価をする。	全体的には、国語・数学・英語の順に評価が低くなっている。上位の生徒数は評価項目『1-②後』のように増加しているが、平均偏差値を上げるには、中下位の生徒に対する基礎・基本の定着のための強い取組が必要である。
		国公立大学合格者数が A 75人以上 B 70人以上 C 60人以上 D 60人未満	年度末に評価する。 ※一昨年度 61名 C評価 昨年度 48名 D評価	/
		難関私立大学合格者数が A 25人以上 B 20人以上 C 15人以上 D 15人未満	年度末に評価する。 ※一昨年度 33名 A評価 昨年度 14名 D評価	/
	②	時期に応じたクラス全体の指導や個人面談などをきめ細かにを行い、生徒の進路意識を高め早期に目標を設定させる。設定した目標実現のため、自ら学習時間を確保するよう意識付けを行う。	進路指導により、(1年)目標とする大学が決まっている(2年)志望校が決まっていると答えた生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	前期学校評価(生徒) ◎進路指導により、(1年)目標とする大学が、(2年)志望校が 1年 2年 ① 決まっている 20.8% 9.1% ② ほぼ決まっている 19.2% 30.8% ③ あまり決まっていない 48.9% 31.6% ④ 決まっていない 11.2% 28.1% ①+② 1年 40.0% D評価 2年 39.9% D評価 ※後期学校評価にて最終評価をする。

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び後期の取り組み(改善策等)
3 部活動や生徒会活動の活性化に努め、チャレンジ精神の涵養を図るとともに、喜びや感動を共有できる教育活動を展開し、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者に「朝の挨拶運動」を始めとしたPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらおう。	学校行事やPTA活動で保護者が来校した回数の平均が A 5回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 3回未満	前期学校評価(保護者) 本年度4月より学校行事やPTA活動で来校した回数が ① 10回以上 0.5% ② 8回以上 2.3% ③ 6回以上 1.3% ④ 4回以上 7.1% ⑤ 2回以上 78.8% 平均 2.2回 D評価 ※後期学校評価にて最終評価をする。 ※昨年度 平均 3.1回 C評価	今年度は「PTA総会」での各学年毎の説明会・講演会等に工夫を凝らし、保護者の参加が昨年度を大きく上回った。また、「朝の挨拶運動」への出席も強く働きかけている。今後は「学校公開」や「大学訪問」等の活動に、より多くの参加者を募るため、広報活動に工夫を凝らしたい。
	② 部活動の加入をうながし、学校全体の活性化を図る。生徒のチャレンジ精神と部活動の実力向上を目指す。	1,2年生の部活動の加入率が A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	12月(新人後)に評価する。Dの場合は改善策を検討 年度当初の加入率 1年 99.0% 2年 83.5% 全体 91.7% ※昨年度(12月) 86.73% B評価	
		チャレンジする目標を達成できた部の割合が A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 50%未満	9月(総体・総文等を含む)の調査結果 チャレンジする目標を達成できた部の割合 75% A評価 ※12月(新人後)に最終評価をする。 ※昨年度 6月 66.7% A評価 12月 86.7% A評価	9月の評価は昨年度より9ポイントほど上昇した。活気がある活動が運動部・文化部を問わずなされ、顧問の指導が行き届いた結果であると考えられる。目標を達成できなかったと答えた部は、活動状況が悪いわけではなく、高い目標に向かい精進した結果に直結しなかったとみられる。
	③ 明倫祭の外部公開を継続し、模擬店数の増加など、イベントの企画について検討を行う。	1日目の来場者数が A 600名以上 B 500名以上 C 450名以上 D 450名未満	明倫祭(1日目) 来場者数計 659名 A評価 一般 177名 保護者 328名 卒業生 89名 招待者 65名 ※一昨年度 450名 C評価 昨年度 560名 B評価	本年度の明倫祭の来場者は、本校開催の1日目が659名、県立音楽堂での2日目が345名、総計1004名となり初めて1000名を超えた。保護者・卒業生は例年並み、招待者は例年より若干の増であったが、一般の来場者が大きく伸びたのが要因である。これは、開催の宣伝効果と共に、夏休み末の土日開催及び一般公開が3日目となり、来場者を積極的に招き入れる本校の方針が広く認知されてきたと考えられる。
	④ 本の読み聞かせ、本の紹介カード展示などの図書委員会活動を地域と連携することでチャレンジ精神の涵養を図る。	地域と連携した図書委員会活動の回数が A 年間6回以上 B 年間5回 C 年間4回 D 年間4回未満	年度末に評価する。Dの場合は、改善策を検討。 地域と連携した活動を4回実施(8月末迄) ※昨年度 5回 B評価	保育園での読み聞かせや、放課後チャレンジクラブ来校の際の読み聞かせ、エコバック作りは生徒の自信になったようである。また、野々市市立図書館主催の「ボランティア養成講座」にも参加したが、生徒は熱心に取り組み、主催者からも高評価を受けた。本の紹介カードの展示は、秋から冬にかけて野々市市立図書館で行われる予定である。
⑤ 体育授業時に運動量を確保し、特に持久走の向上を図る。	1,2年生の新体力テスト(シャトルラン)で、1回目より向上した生徒の割合が A 70%以上 B 65%以上 C 60%以上 D 60%未満	新体力テスト(5月,11月) 5月(1回目)のデータと11月(2回目)のデータを比較し評価する。Dの場合は、改善策を検討 ※昨年度 1年 62.3% C評価 2年 56.9% D評価		

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び後期の取り組み(改善策等)
4 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する心豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりとできる人間の育成を図る。	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、挨拶を自分からすすんでしっかりとすることができたと答えた生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	前期学校評価(生徒) ◎学校生活において、あいさつを自分からすすんで、大きな声で ① することができた 68.8% ② できなかった 31.0% ① 68.8% C評価 ※後期学校評価にて最終評価をする。 ※昨年度 7月 74.6% B評価 12月 64.0% C評価	前年同期の74.6%から大きく下降した。教職員に対する調査「自分からすすんで生徒はあいさつをしているか」では、前年同期の値が34.0%から50.0%と逆に増加している。いずれにしても、目標の80.0%を目指し、挨拶がしっかりとできる生徒の育成に向け取り組んでいく必要がある。
	② 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	交通ルール(自転車の二人乗りや携帯電話を操作しながら等の運転をしない)を遵守している生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	前期学校評価(生徒) ◎交通ルールを遵守している。 ① よくあてはまる 62.1% ② ややあてはまる 31.8% ③ あまりあてはまらない 5.2% ④ まったくあてはまらない 0.7% ①+② 93.9% A評価 ※後期学校評価にて最終評価をする。 ※昨年度 7月 94.1% A評価 12月 93.8% A評価	調査結果から、生徒の交通ルール遵守への意識は高いことがわかる。しかし、自転車等の事故報告件数は8月末現在で10件あり(昨年度18件)、自転車左側通行を定めた改正道路交通法の周知徹底を図り、事故件数ゼロを目指したい。
	③ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。情報の収集・共有を密に行い、困難を抱えている生徒に対して早期に対応・支援する。	生徒の変化に対して素早く察知し、対応することができた教職員の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	前期学校評価(教職員) ◎生徒の変化に対して ① 素早く対処し、解決に至った 7.7% ② 素早く察知し、対応することができた 78.8% ③ 素早い対処ができず、解決が遅れた 7.7% ④ 発見・対処が遅れた 0.0% ①+② 86.5% B評価 ※後期学校評価にて最終評価をする。 ※昨年度 7月 98.1% A評価 12月 98.1% A評価	本校では学年及び部活顧問等との密な情報共有・問題への早期対応、生徒の抱える問題理解のための情報発信、生徒支援のため外部機関と適切な連携を行っている。①+②の値は、集計方法が前年度までと異なるため、前年度とは単純に比較できないが、未回答者が5.8%いることを考慮すると概ね前年度並であった。いじめや事故等へ適切に対応し、安心・安全な学校づくりのため、後期も継続して取り組んでいきたい。
	④ 学校内外のボランティア活動への自発的な参加を促す。	ボランティア活動に、参加した生徒の割合が、 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	前期学校評価(生徒) ◎今年度ボランティア活動に ① 自発的に複数回参加した 4.4% ② 自発的に参加した 11.1% ③ 参加した 38.4% ④ 参加しなかった 45.7% ①+②+③ 53.9% B評価 ※後期学校評価にて最終評価をする。	前年度までの調査と大きく調査項目を変更したため、前年度との比較は難しいが、前年度の同様の調査「ボランティア活動に3回以上参加した」生徒の割合は、前年度同期の11.9%から前年度末の14.9%と、年度内で若干上昇している。後期は①+②の値(自発的な参加者)が50.0%を超えるよう、強く働きかけていきたい。
	⑤ 図書便りなどによる図書案内、朝読書、ビブリオバトルなど各学年団と連携した読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。各学年団と連携し、生徒に読書に親しむ習慣を身につけさせる。	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が A 7.0冊以上 B 6.0冊以上 C 5.0冊以上 D 5.0冊未満	年度末に評価する。CまたはDの場合は、改善策を検討 8月末現在の平均貸出冊数 1.02冊 ※一昨年度 7.0冊 A評価 昨年度 5.8冊 C評価	8月末現在の平均貸出冊数は1.02冊、これは昨年同期とほぼ同じ数である。しかし、1年生は連携して取り組んでいる朝読書やビブリオバトルの効果もあり、読書する習慣が身に付いてきていると思う生徒が71.6%と昨年より大幅に増加した。今後は広報と展示にさらなる工夫を凝らすこと、学年と連携し、総合的な学習の時間等を利用して、図書館利用を図る取組を推進していきたい。
	⑥ 環境にやさしい行動を、意識して取り組むことができる生徒の育成を図る。	学校版環境ISO意識調査でゴミの分別に心がけている生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	前期学校評価(生徒) ◎学校や家庭で環境にやさしい取組を行っている。 ① よくあてはまる 29.8% ② ややあてはまる 52.1% ③ あまりあてはまらない 15.0% ④ まったくあてはまらない 2.9% ①+② 81.9% A評価 ※後期学校評価にて最終評価をする。 ※昨年度 7月 79.4% B評価 12月 79.2% B評価	本校では身近な生活環境の問題について意識を高め、環境にやさしい行動ができる生徒の育成を目指した取組を行っている。①+②の値は、前年度より若干上昇した。教室移動時の消灯や晴天時の窓側消灯への意識を更に高め、①回答の割合を増やしていきたい。